

障害って何だろう

駒王中 三年

永井 寧生

いつもと変わらぬ朝だった。いつものようにテレビをつけると、死傷者四十六名と
いう言葉が耳に飛び込んできた。僕はがく然
とてた。神奈川県相模原の障害福祉施設で起
きた無差別殺人事件である。本当にこの世で
起こった事なのか。信じられない惨事に背筋
が凍った。事件は、戦後最悪の殺人事件とな
り、僕らに多くの問題を投げかけた。

「な、健全者は障害者を特別扱いするのだろ
うか。僕は、事件の被害者の名前がまったく
出てこないことが疑問だった。人権だ、平等
だと言うけど、やっぱり偏見はなくならない。
障害があっても、世界中で活躍している人
はたくさんいる。例えばオリンピック。健全
者によるオリンピックが終わると、続いて障
害者によるパラリンピックが始まる。視覚障
害者は音の出るボールを使い、手足の不自由
な人は、義足や車いすを使い競技を行う。足

が無くても義足をうければ健常者と同じよう
 に走ったり跳んだりできるし、車いすに乗れ
 ばデクスやバスケットボールもできる。メダ
 ルを取って、たくさんの人と違って喜び合え
 るのだ。僕達おりおつと辛い思いをしてきた
 はずの人達が、僕等の何十倍も努力して、生
 き生きと生きている。僕は自分が小さな人間
 に思えた。

そしてもう一人、僕の尊敬する人もまた、
 障害者なものともせず世界で活躍している。ビ

アニス人の辻井伸行さんだ。辻井さんは盲目
 のピアニストである。世界的なコンクールで、
 数々の賞を獲得している。本当に目が見えない
 のか？辻井さんとの出会いは衝撃的だった。こ
 生まれたとき目が見えない辻井さんは、自然の
 風景や光、色を見たこと、感じたこともない
 はかなのに、ピアニストでそれを表現することか
 できる。辻井さんの奏でる美しいピアニの音
 色に、僕は感動と勇気をもらった。このよう
 に障害があつても、精一杯生きている人がた

くさんいるのに、なぜ彼らが大量殺人の標的
にならなければならなかったのか、僕には分
からない。

前述したように、相模原の事件ではたさん
の障害者が殺された。しかし、本当の障害者
は殺された人達ではないと思う。何十人とい
う人を殺しても、カメラ目線、笑みを浮かべ
ている犯人こそが、真の障害者だと思いの器
社会は、この歪んだ人格を救うことはできな
かったのか。脱線してしまっただ思想を、修正

してあげようと、手を差し伸べる人は
いながったのだろうか。真の障害者をつくり
だしてしまっただのは、もしかしたら今の社会
なのかもしれない。

先からの社会、僕らは、身体的障害者は
もちろん、心に障害をおっってしまった人達に
も、温かく手を差し伸べなければならぬとい
思う。そして障害の有る無しにかかわらず、
一人の人間として、個性を認め含める世界を
つくっていきたい。